

平成29年 9 月 27 日

平成29年第 3 回神奈川県議会定例会

県民・スポーツ常任委員会報告資料

ス ポ ー ツ 局

1	ラグビーワールドカップ2019™及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた主な取組みについて……………	1
2	県の負担金を財源とする補助金に係る神奈川県レスリング協会による不適正経理処理について……………	7

1 ラグビーワールドカップ2019™及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた主な取組みについて

(1) ラグビーワールドカップ2019™に向けた主な取組み

ア 経過

共同開催都市である県と横浜市は、ラグビーワールドカップ2019組織委員会（以下「組織委員会」という。）と会場整備や開催準備に係る協議、調整を実施している。

あわせて、県では、県内市町村、企業等と連携し、ラグビーワールドカップ2019™の周知やラグビーの普及など、全県での機運醸成に向けた取組みを展開している。

また、平成29年5月10日には京都迎賓館でラグビーワールドカップ2019™組分け抽選会が開催され、予選プールの組合せが決定した。

イ 会場整備・開催準備の取組み

ラグビーワールドカップを主催しているワールドラグビーから大会運営を委託されている、ラグビーワールドカップリミテッド及び組織委員会による視察や現地調査等を踏まえ、交通・警備などの会場整備やファンゾーン（※）及びボランティアに係る運営計画策定に向けた協議を行っている。

※ ファンゾーン：大会期間中に、開催都市等に設置されるイベントスペース

ウ 普及啓発・機運醸成の取組み

(ア) 横浜市との共同事業

平成29年度は、横浜国際総合競技場では初のラグビー国際試合となる日本代表対オーストラリア代表戦の誘致をはじめ、パブリックビューイング、カウントダウンイベントなどを実施する。

<平成29年度実績・実施予定>

主な事業	日程	開催場所
パブリックビューイング	5月20日（土） （約200人）	ヨコハマNEWSハーバー （スーパーラグビー中継）
	6月10日（土） （約500人）	クィーンズスクエア横浜 （日本代表戦中継）
小学校への出前授業	6月13日（火） から計18回実施 予定	横浜市内小学校（18校）
ストリートラグビー体験	9月16日（土） （約300人）	象の鼻パーク （ベトナムフェスタin神奈川で実施）
大会2年前イベント 開催都市特別サポーター（神奈川・横浜）委嘱式（※）	9月18日（祝） （約1,500人）	MARK IS みなとみらい、グランモール公園
日本代表戦の誘致	11月4日（土）	横浜国際総合競技場 （日本代表対オーストラリア代表戦）
決勝戦2年前イベント	11月4日（土）	横浜国際総合競技場周辺

注 「日程」中に記載した人数は参加者数

※ ラグビーワールドカップ2019™開催都市特別サポーター（神奈川・横浜）〈五十音順〉

- 鈴木 彩香 氏（女子ラグビー日本代表選手）
- 林 敏之 氏（元男子ラグビー日本代表選手）
- 吉田 義人 氏（元男子ラグビー日本代表選手）

(イ) 全県での取組み及び横浜市以外の市町村や企業等と連携した取組み

平成29年度は、新たに県内大学との連携、市町村や企業との連携の拡充、県内の様々なイベント等でラグビーワールドカップPRブースを出展するなど普及啓発活動を強化する。

<平成29年度実績・実施予定>

主な事業	日程	開催場所
東海大学ラグビー部 「丹沢祭」	7月9日（日） （約1,000人）	東海大学湘南キャンパスラグビー場 （大学との連携：東海大学）
ストリートラグビー体験	8月27日（日） （約1,000人）	小田原城址公園 （市町村との共同事業：小田原市）
親子ラグビーバスツアー	10月7日（土）	東京ガス大森グラウンド （企業との連携：東京ガス㈱神奈川支社）
親子ラグビー合宿	10月14日（土） 10月15日（日）	星槎箱根仙石原スポーツクラブグラウンド （総合型スポーツクラブとの連携：星槎箱根 仙石原総合型スポーツクラブ）
県内市町村とのイベント	秋から冬	調整中（市町村との共同事業）

注 「日程」中に記載した人数は参加者数

エ 公認チームキャンプ地の選定

ラグビーワールドカップ2019™の大会期間中にチームが滞在する公認チームキャンプ地について、組織委員会が平成28年8月1日から12月22日まで全国の自治体に募集を行った。

(ア) 県内の公認チームキャンプ地応募状況

応募件数 4件 応募自治体数 5自治体

神奈川県・藤沢市（共同応募）、横浜市、厚木市、海老名市

（参考）全国の応募状況 応募件数 76件 応募自治体数 90件

(イ) 公認チームキャンプ地選定の今後の主な予定

平成29年1月～9月 組織委員会による実地審査

平成29年秋～ 公認チームキャンプ候補地決定

平成29年冬～ チームによる現地視察

平成30年春～ 公認チームキャンプ地決定（順次）

オ 大会開催に向けた今後の主な予定

平成29年11月2日 試合日程発表、チケット販売概要発表

平成29年冬～ チケット販売開始

ボランティア概要発表、募集開始

(2) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた主な取組み

ア 経過

江の島でのセーリング競技開催に向けた準備を円滑に進めるため、県では、5月31日に合意された「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の役割（経費）分担に関する基本的な方向について」に基づき、必要な恒久施設の整備を進めるとともに、既存艇利用者や漁業関係者、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下「組織委員会」という。）との調整を行っている。

また、セーリング競技をはじめとした東京2020大会の機運醸成、普及啓発に向けた取組み及び事前キャンプの誘致を進めている。

なお、9月6日、開催に向けた業務に必要な経費に充てるため、東京都及び他の関係自治体とともに、全国自治宝くじ事務協議会に対し、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に対する追加の宝くじ支援を求める要望書を提出した。

イ セーリング競技関係

(ア) 湘南港利用者の既存艇の取扱いについての説明・意見交換等

湘南港利用者との個別の調整	湘南港の既存艇の移動に向け、利用者との個別の面談を通じ、利用の状況や移動に当たっての希望等の確認を行っている (平成29年9月22日現在：683艇分対応)
メールマガジンの配信	艇の移動に関することや、セーリング競技開催に向けた取組み、国内外のセーリング競技の動向等を情報提供するため、メールマガジンの配信を行っている（平成29年9月22日現在で13回発行）
相談窓口の設置	既存艇の移動等に関する湘南港利用者の意見や相談に対応するため、平成28年11月から湘南港のヨットハウス内に相談窓口を設置している。 設置場所：ヨットハウス2階 開設日・時間：原則として毎週日曜日、午後1時～5時 (平成29年9月22日現在：延べ178組306艇分対応)
文書による状況報告	平成29年7月18日に湘南港利用者に対し、2018年のオリンピックプレレ大会における艇の移動等について、組織委員会及び競技団体との調整状況について文書による報告を行った。 (主な内容) ・移動が必要な艇の数をできる限り少なくすることを検討中 ・移動が必要な場合でも移動期間を2週間程度に短縮することを検討中

(イ) レースエリアに関する調整

県で、レースエリアの調整素案を作成し、漁業関係者や組織委員会、競技団体と意見交換を行っている。

(ロ) 大会開催時の交通対策

大会関係者や観客等の円滑な輸送の実現に向け、「2020交通輸送円滑化推進会議(事務局：内閣官房)」が5月に設置され、経済活動への影響も踏まえた交通対策について、組織委員会、東京都、関係自治体等が一体となって検討を進めている。

(ハ) 女性センター跡地の利活用

県有地の有効活用を図るため、一般観光客用の駐車場（江の島かもめ駐車場）として整備するとともに、オリンピックの開催等に必要な期間については、既存艇置場及び仮設建築物用地として利用する。

また、敷地の一部を、事前練習を行うために各国チームが持ち込む暫定的なコンテナ置場として提供している。

・江の島かもめ駐車場の概要

営業開始日・・・平成29年7月21日

敷地面積・・・約16,500㎡、

駐車台数・・・普通車503台、バス14台

・コンテナ置場の概要

設置可能基数・・・30基

暫定使用期間・・・平成29年7月1日～10月31日までの4ヶ月間

※9月22日時点で13カ国、15基のコンテナが設置された。

(オ) セーリング競技の機運醸成及び普及啓発に向けた取組み

a セーリング体験会の実施

江の島ヨットハーバー等において、小・中・高校生や障がいのある方を対象としたセーリング海上体験会を、また、地域住民が多く集まる市民祭り等において、セーリング出張型体験会を実施している。

さらに、藤沢市のテラスモール湘南において、東京2020大会1,000日前イベントを兼ねたセーリング陸上体験会を実施する。

<平成29年度実施スケジュール>

種 類	日 程	開催場所
海上体験会	7月16日（日）（40人） 7月17日（月・祝）（44人）	八景島マリーナ
	7月30日（日）（45人） 8月10日（木）（46人） 9月3日（日）（44人） 10月15日（日） 11月3日（金・祝、予備日）	江の島ヨットハーバー
	9月23日（土・祝）	横浜ベイサイドマリーナ
	①6月3日（土）（408人） ②8月6日（日）（596人） ③9月23日（土・祝）、24日（日）	①横須賀カレーフェスティバル ②小田原みなとまつり ③藤沢市民まつり
	東京2020大会 1,000日前イベント 及び陸上体験会	10月28日（土）

注 「日程」中に記載した人数は参加者数

b デジタルサイネージ等を活用した広報

セーリング海上体験会の告知を、駅構内のデジタルサイネージで放映した。

また、今後、セーリング競技の迫力を伝える動画等を、電車内のデジタルサイネージや映画館で上映される広告等で放映することを予定している。

<平成29年度デジタルサイネージ等放映スケジュール>

場 所	期 間
京急横須賀中央駅	7月1日（土）～7月31日（月）
テラスモール湘南	10月1日（日）～10月28日（土）

場 所	期 間
小田急線車内	10月9日（月・祝）～10月28日（土）
横浜ブルク13	10月7日（土）～10月28日（土）
109シネマズ湘南	
TOHOシネマズ小田原	

c セーリングのワールドカップシリーズ江の島大会に向けた取組み

競技団体が中心となり、藤沢市内関係団体、関係市町、県等の関係者とともに、2018年から3年連続で開催されるセーリングのワールドカップシリーズ江の島大会の開催に向けた運営体制について、調整している。

ウ 東京2020大会全体の機運醸成等に向けた取組み

(ア) フラッグツアーの巡回

9月3日（日）に、神奈川県庁本庁舎正面玄関前においてフラッグ歓迎イベントを開催した。

その後、9月4日（月）から11月6日（月）まで約2ヶ月間をかけて、オリンピックフラッグ及びパラリンピックフラッグが県内市町村を巡回している。

(イ) 東京2020大会1,000日前イベント及びセーリング陸上体験会（再掲）

オリンピック開催まで1,000日前となる10月28日にオリンピック・パラリンピックを盛り上げ、あわせてセーリングの陸上体験ができるイベントを実施し、大会に向けた機運醸成を図る。

日程 平成29年10月28日（土）

会場 テラスモール湘南（藤沢市）

主な内容 ・オリンピック・パラリンピアンによるトークショー

・セーリング陸上体験

・オリパラ関連スポンサー企業の協力によるパラリンピック競技体験

・ボルダリング体験 など

エ 事前キャンプ誘致の取組み

(ア) 県内における事前キャンプ誘致の状況

神奈川県内では、平成29年9月現在、県及び5市3町3団体が、5カ国と事前キャンプに関する協定等を締結している。

県は、引き続き市町村と連携し、事前キャンプの更なる誘致に向けた取組みを進めていく。

<県内における事前キャンプ誘致の状況>

	協定等締結年月	団体名	相手国
1	平成27年9月	県、小田原市、箱根町、大磯町、星槎グループ	エリトリア国
2	平成28年2月	横浜市、川崎市、慶應義塾大学	英国
3	平成28年10月	県、平塚市	リトアニア共和国
4	平成29年4月	県、小田原市、箱根町、大磯町、星槎グループ	ブータン王国
5	平成29年6月	相模原市（※）	ブラジル連邦共和国
6	平成29年7月	葉山町、大同生命保険（株）	英国（セーリングチーム）

※ ブラジル連邦共和国オリンピック委員会との覚書は、相模原市のほか（公財）日本オリンピック委員会（JOC）、埼玉県、新座市、立教学院、東京都中央区、江東区、大田区との間で締結。

(イ) 県内における「ホストタウン」の登録状況

神奈川県内では、平成29年9月現在、県及び5市3町が、6カ国の「ホストタウン」として正式に登録されている。

<県内における「ホストタウン」の登録状況>

	登録年月	登録団体名	相手国
1	平成 28 年 1 月	○県、小田原市、箱根町、大磯町	エリトリア国、ブータン王国 (※)
2		横浜市	英国
3		川崎市	英国
4		○平塚市、県	リトアニア共和国
5		厚木市	ニュージーランド
6	平成 29 年 7 月	小田原市	モルディブ共和国
7		葉山町	英国

注 ○印は、申請主体

※ ブータン王国は、平成28年12月に追加登録された。

2 県の負担金を財源とする補助金に係る神奈川県レスリング協会による不適正経理処理について

平成29年7月20日、県の国民体育大会等関連事業費の負担金を主たる財源として、公益財団法人神奈川県体育協会（以下「県体協」という。）から県内競技団体に交付している競技力向上対策事業補助金（以下「補助金」という。）について、神奈川県レスリング協会（以下「レスリング協会」という。）の選手強化費の管理者である役員（県立高等学校教員。以下「担当役員」という。）が不正に受給しているとの知事あての匿名の投書が届いた。その後、県で調査した結果、担当役員による不適正経理処理が行われていたことを確認した。

また、本事案は、平成29年3月にも、レスリング協会内部関係者から同様の指摘をする文書が県体協に提出され、調査が行われたが、担当役員等による事実の隠蔽があったため、県体協で不適正経理処理を確認することができなかった。

この補助金に関しては、神奈川県カヌー協会（以下「カヌー協会」という。）による不適正経理処理が発覚し、平成29年6月27日に県の調査結果及び再発防止策を公表したところであるが、本事案は、当該再発防止策を講じる前に行われたものである。

県は、今後、レスリング協会に対する調査を進め、不適正経理処理の全容を明らかにするとともに、全ての補助金受給団体に対し、カヌー協会の不適正経理処理の際に講じた再発防止策を徹底する。

さらに、不適正行為に対する積極的な内部通報を促すための「コンプライアンス窓口」を新たに設置するなど、不適正経理処理の根絶に向けた体制強化を図っていく。

(1) 補助金の概要と交付の流れ

ア 補助金の概要

(ア) 目的

神奈川の競技力向上を推進するため、競技団体が行う選手強化を図るための事業を支援する。

(イ) 交付団体

県体協加盟団体のうち、国民体育大会に選手を派遣している競技団体（41団体）

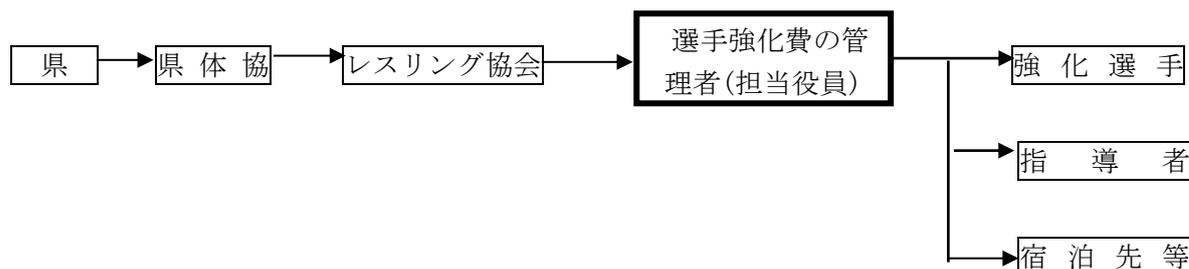
(ウ) 対象経費

- ・強化練習等の指導者への謝金
- ・強化練習等に参加した指導者及び選手等の旅費（交通費、宿泊費）
- ・練習会場及び会議室等の借上げ料 等

イ 補助金交付の流れ

県体協から各競技団体に補助金が交付され、各競技団体から選手・指導者、宿泊施設等に経費が支払われる。

レスリング協会では、選手強化費の管理者である役員に一旦支払われ、当該役員から選手・指導者等に支払われており、補助金の管理はこの役員が一人で行っていた。



(2) 現時点で判明している不適正経理処理の内容等

ア 不適正経理処理額

県体協に現存する平成 23 年度から平成 28 年度までの 6 年間のレスリング協会に対する補助金の資料を基に、関係者への聞き取り調査を実施した。

その結果、現時点(平成 29 年 9 月 25 日)で、延 153 件、737 万 4 千円の不適正経理処理を確認した。

なお、受領確認が未了の案件が延べ約 90 件あり、今後、不適正経理処理額がさらに増えることも想定される。

イ 不適正経理処理の内容

現時点で判明している不適正経理処理の内容は次のとおり。

(ア) 謝金 (120 件 495 万 7 千円)

担当役員が、領収書を自ら偽造又は指導者(県立高等学校教員等。以下同じ。)から白紙の領収書を提出させ、実際には支払っていない指導者謝金を支払ったと虚偽の実績報告をしていた。

(イ) 交通費 (27 件 146 万円)

強化合宿におけるバス借上代を、参加者から徴収していたにもかかわらず、補助金で全額支払ったと虚偽の実績報告をしていた。また、公共交通機関で強化合宿又は強化練習に参加した選手・指導者に支払ったとされる交通費が、実際には支払われていなかった。

(ロ) 宿泊費 (6 件 95 万 7 千円)

強化合宿における宿泊費を、参加者から徴収していたにもかかわらず、選手強化費で全額支払ったと虚偽の実績報告をしていた。また、実績報告書に記載の宿泊者の中には、実際には宿泊していない者もいた。

<現時点で確認できている不適正経理処理に係る補助金の年度別一覧>

年度	補助金額	不適正経理処理が認められた補助金			
		謝金	交通費	宿泊費	合計
平成 28 年度	2,850 千円	17 件 629 千円	1 件 239 千円	1 件 162 千円	19 件 1,030 千円
平成 27 年度	2,850 千円	20 件 1,020 千円	1 件 268 千円	1 件 180 千円	22 件 1,468 千円
平成 26 年度	1,550 千円	27 件 957 千円	10 件 249 千円	1 件 180 千円	38 件 1,386 千円
平成 25 年度	1,350 千円	21 件 807 千円	4 件 231 千円	1 件 180 千円	26 件 1,218 千円
平成 24 年度	1,320 千円	21 件 807 千円	4 件 220 千円	1 件 180 千円	26 件 1,207 千円
平成 23 年度	1,350 千円	14 件 737 千円	7 件 253 千円	1 件 75 千円	22 件 1,065 千円
計	11,270 千円	120 件 4,957 千円	27 件 1,460 千円	6 件 957 千円	153 件 7,374 千円

※ 平成 29 年 9 月 25 日時点の金額であり、今後の調査で増えることも想定される。

ウ 不適正経理処理に係る補助金の使途

担当役員によると、不適正経理処理で得た補助金は、強化合宿や強化練習で使用するためのテーピング用テープ、医薬品、飲料等の購入に充てるとともに、競技活動費に充てるためにプールしていたと説明しているが、詳細については確認中である。

エ 不適正経理処理が行われた背景

レスリング協会には会計規程がなく、補助金に係る経理処理は担当役員が独断で行っていたこと等が考えられるが、詳細については調査中である。

(3) 不適正経理処理の事実の隠蔽

本事案に関しては、平成 29 年 3 月 17 日、県体協にレスリング協会内部関係者から、担当役員が補助金を不正に受給している旨の報告書が提出されている。

これを受けて、県体協は、補助金の実績報告書を基に、補助金支出先の多くを占める指導者謝金について、実際に指導者に支払われたかアンケート調査等により確認を行ったが、担当役員及び指導者が次のとおり事実を隠蔽したため、不適正経理処理を確認することができなかった。

- ・担当役員は、県体協が行うアンケート調査の対象となる指導者に対し、実際には授受のなかった謝金について、授受があったという虚偽の回答をするよう依頼した。
- ・担当役員から依頼を受けた指導者は、県体協が行った補助金の受領確認のアンケート調査の際に、実際には謝金の授受がなかったにもかかわらず、授受があったと回答した。

(4) 今後の対応

ア 県の対応

(ア) 全容解明に向けた調査

引き続き、補助金の支払先が実績報告書と齟齬がないか調査し、不適正経理処理額を確定するとともに、不適正経理処理で得た金銭の使途等、事案の全容を明らかにする。

(イ) 県体協に対する負担金の返還請求

不適正経理処理額が確定次第、県体協に対し当該分の県負担金の返還を請求する。（返還日までの加算金についても別途請求する。）

(ロ) 県独自のコンプライアンス窓口の設置

本事案のように、実績報告書に添付された領収書に偽造や虚偽記載がある場合、関係者の内部通報が発見に係る有力な手段となる。そこで、不適正経理処理を始めとする不適正事案について、選手や指導者等の団体内部からの通報や相談を受けるコンプライアンス窓口を、新たに県スポーツ局スポーツ課に設け、不適正事案の早期発見及び抑止を図る。

イ 県体協の対応

(ア) 今回の事案を踏まえた再調査の対応方法の検討と実施

本事案の全容解明と併せて、再調査の具体的な対応方法を検討し、実施する。

(イ) 再発防止策の徹底

現在取組んでいる各団体の会計規程の整備や複数職員による会計手続き等の再発防止策が徹底されれば、防止可能な事案であることから、各団体での確実な実施の徹底を図る。

<参考 1> これまでの経緯

《県体協への内部通報》

平成 29 年 3 月 17 日

県体協に、レスリング協会内部関係者から、担当役員が補助金を不正に受給している旨の報告

書が郵送された。

《県体協による調査》

平成 29 年 3 月 19 日～5 月 3 日

県体協は、レスリング協会への補助金の主な使途となっている指導者謝金が、実績報告書のとおり支払われていたか、アンケート調査等により確認を行ったが、担当役員及び指導者が事実を隠蔽したため、不適正経理を確認することができなかった。

《県体協による県への報告》

平成 29 年 5 月 23 日

県体協は、レスリング協会の補助金は適正に執行されていた旨の調査結果を県に報告した。

《知事への匿名の投書》

平成 29 年 7 月 20 日

知事あてに、担当役員が補助金を不正に受給しているとの匿名の投書が届いた。

《県・県教委による調査》

平成 29 年 7 月 26 日

県及び県教育委員会は、レスリング協会の補助金が適正に使われているか調査を開始した。

＜参考 2＞ 神奈川県高等学校体育連盟レスリング専門部の不適正経理処理

担当役員を含め、県立高等学校教員が関わる不適正経理処理であることから、県教育委員会と神奈川県高等学校体育連盟（以下「高体連」という。）が高体連レスリング専門部の経理処理について調査を行ったところ、経費の内、県補助金（県教育委員会から高体連への優秀選手強化事業等に係る補助金）については適正に処理されていたが、その他の団体経費の処理について、その一部に不適正な取扱いが判明した。

1 内容等

高体連レスリング専門部の会計担当の県立高等学校教員が、平成 24 年度から平成 28 年度までの 5 年間の団体経費の総額約 413 万円の内、約 68 万円（26 件）について、虚偽の旅費伝票を作成し、関係者の昼食弁当代等に充てた。

2 今後の対応

県教育委員会では、レスリング協会事案に県立高等学校教員が関与していることから、関係する教員に厳正に対応していくとともに、高体連の会計事務の適正化に向け、指導していく。

※ 神奈川県高等学校体育連盟

- ・高等学校における体育の健全な発展を図ることを目的に、県内の公私立の高等学校で組織された団体。
- ・陸上競技、水泳、バレーボールをはじめ 37 の競技専門部を置く。レスリング専門部は、その内の一つ。